

(様式2)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 23年 3月 15日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490500091		
法人名	社会福祉法人たちばな福祉会		
事業所名	たちばな苑グループホーム		
所在地	広島県呉市倉橋町14948 (電話) 0823-54-1516		
自己評価作成日	平成23年2月1日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.hksjks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3490500091&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	(社福) 広島県社会福祉協議会
所在地	広島県広島市南区比治山本町12-2
訪問調査日	平成23年2月21日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

温暖で豊かな自然環境に恵まれ、整備された散歩道を毎日散歩しながら季節を感じることができ暮らしの中に癒し効果をもたらしています。併設特養での行事、クラブなどを一緒に行い利用者様同士の交流を行っています。
利用者様、ご家族の方が安心して頂くよう医師を中心として利用者様の健康管理に努め、職員は目配り、気配りでいつも笑顔で家庭的なグループホームを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

たちばな苑グループホーム（以下、ホーム）は、呉市の南端、瀬戸内海のほぼ中心にあり温暖な気候で風光明媚な場所に位置しています。ホームは特別養護老人ホームやデイサービスセンターなどと同じ敷地内にあります。桜の木や季節の花が多く植えられており、四季の移り変わりを感ずることができます。
母体法人の理事長でもある診療所の医師が、毎週健康チェックに出向き、健康管理を行われており、医療との連携が密に取られています。
介護の基本である声かけ、目配り、気配りなどを忠実に実行され、笑顔あふれる家庭的な雰囲気があります。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	たちばな福祉会全体としての理念があり、朝の引継ぎのときに唱和し、職員間で共有し実践するよう心がけている。	法人全体の理念のほかホームの目標があり、ケアにあたっては「話しかけて確認する」、「やさしい態度と言葉かけ」などを毎日の朝礼で確認をされています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	散歩の途中の「声かけや、お祭りや地域の行事などに参加している。	秋祭り、倉橋町内駅伝大会の応援、海浜公園での地域住民との交流などが行っています。また、地元消防団の協力により夜間防火訓練や台風時の高潮の見回りなどが行われています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	施設見学の時、必ずグループホームの見学を取り入れ地域の高齢者の理解を深めていただけるよう努力している。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	職員が運営会議の資料いつでもみられるようにしている。	運営推進会議は年4回開催されています。メンバーは、利用者の家族、町内会会長、老人会代表、地域包括支援センター職員等で構成されています。運営状況や外部評価の結果などについて協議しています。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	地域的な事情から包括支援センターと連携をとれるようにしている。	今年1月から2ユニットに増設されたこともあり、市役所と打ち合わせをされています。	地域住民に対する認知症高齢者の理解と協力を得るため、市役所と連携して、認知症サポーター事業などにホームとしても取り組まれることを提案します。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	併設施設の勉強会に参加し身体拘束のないケアを心がけている。	身体拘束をしないケアについては、研修を通じて正しく理解され、拘束のないケアに取り組まれています。なお、玄関先に川があり危険なため、玄関が施錠されています。	危険場所については改善を提案します。また、施錠については、利用者の自由な生活を支援する視点に配慮しさらなる検討を期待します。
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	外部研修、併設施設の勉強会に参加している。		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	外部研修、併設施設の勉強会に参加して活用できるよう備えている。		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	契約時に十分に説明し、質問にはわかりやすく丁寧に対応して理解、納得を得ている。		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	併設施設の家族会、家族の面会時に意見を聞き把握に努めている。又苦情箱を置き、意見が自由に言える機会をつくっている。	家族の面会時に意見を聞くように努めておられます。また、玄関先に意見箱を設置していますが、意見が入ることはないようです。	毎月、定期的に家族宛に利用者の状況を手紙で報告されているので、意見が書きやすいようにアンケート用紙を同封されることを提案します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回の職員会議やミーティングを随時おこなっている。	月1回の職員会議や随時開催されるミーティングの際に職員からの意見を聞いておられます。食事形態の改善や行事等について提案があります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	業務目標の達成に努力し評価される。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人外での研修、職員の力量に応じた研修の機会をもうけ積極的に取り組んでいる。資格取得の促進。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	研修会の参加、他施設の見学などでの情報交換を持ちサービスの向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	居宅と連携を取り、家庭環境、要望を把握し本人、家族とコミュニケーションをもち安心していただくように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	事前面接、見学に来ていただき、本人の希望などを聞き対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご利用者に何が必要であるかサービス事業所と連携をもち優先順位を検討し、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	掃除、食事の準備、片付け、クラブ、散歩など一緒に行いその人にあつた支援をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	両者の話を聞き本人と家族の時間をつくる為面会時には利用者、家族、職員も入り話を聞きお互いの理解を深める。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	併設施設の行事、クラブ参加、地域の行事の参加。	併設の特別養護老人ホーム、デイサービスの行事と一緒に参加され、馴染みの地域住民との交流が図られています。家族と一緒にこれまで通っていた美容院に行く利用者もいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者の言動、行動に気を配り把握し、より良い関係作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	季節毎の挨拶状をだしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の生活歴、対話を密に取り、その人らしさを引き出し個別ケアに努めている。	本人、家族から生活歴を聞き取り、本人の思いに応じたケアに取り組まれています。畑作りが得意な利用者には畑仕事を提供したり、花屋の仕事に従事されてきた利用者には、活け花を楽しめるようしたり配慮されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族、居宅、サービス事業所と経過などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとりの日誌に日々の記録をし体調変化の早期発見に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人、家族、管理者、職員と話し合い、利用者にとってよりよいケアができるよう医師も加わり介護計画をたてている。	月1回関係者によるミーティングを開催し、ケアプランの見直しについて検討されています。 本人、家族の意見を取り入れて、身体状況に応じたプランに見直されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日誌、引継ぎノート、個別記録の記入し、職員間で検討しながら見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	併設施設のクラブ活動、行事に参加するなどして利用者同士の交流を楽しまれている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	運営推進会議を通じて民生委員の協力を得たい、包括支援センターと連携をとっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	早期発見、早期治療に努めかかりつけ医の診断を定期的に受け、適切な医療が随時うけられるようにしている。	週1回主治医の往診があり、健康管理に配慮されています。 また、専門の医療機関への受診が必要な利用者は家族が付き添って受診されています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	併設特養の看護師、かかりつけ医の看護師が緊急な場合対応できるようになっている。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	入院したときは、お見舞いに行き、医療機関に情報交換し退院ごのケアに備えている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	家族やかかりつけ医、及び看護師との連携がとれる体制がある。	最後まで見てほしいとの家族の希望があり、最近、看取りに取り組まれた例があります。これからも、家族、医師と協議しながら対応されます。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	全職員が併設施設の勉強会に参加し急変や事故に備えている。何か起これば随時全職員を集め知識、技術の習得に努めている。		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	消防署の指導のもと併設施設との合同防災非難訓練を行っている。年1回の夜間訓練では地域の消防団にも参加してもらい合同訓練を行っている。	年2回消防訓練を実施されています。うち1回は地元消防団の応援を得て夜間訓練を実施されています。また、スプリンクラーの設置工事もされており、まもなく完成の予定です。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個人のプライバシーに簡することは個別に行っている。 ケースブックなどは施設のできる保管庫に納めている。	接遇研修で高齢者の尊厳とプライバシーの保護について研修をされています。入浴支援、排泄支援についても同性介助を心がけられています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	選択しやすい話しかけ心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個々のペースにあった対応を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	希望者には、行きつけの理美容院いってもらっている。 日々の身だしなみは職員が気を配るようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の準備、片づけを職員と一緒にしている。	母体施設の給食調理場から運ばれてきた食材を盛り付けされています。盛り付け、後片付けを職員と一緒に行う利用者もおられます。おやつは、たこ焼き、ホットケーキなどを手作りされています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	体調を崩されたときや食欲の進まない時には好物や食べたいもの聴き提供することになっている。 定時以外の水分補給の話しかけや水分摂取量の少ない利用者へは随時提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の歯磨きは奨励し口腔内清掃の支援に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄記録をとり，一人ひとりの排泄を記録し気持ちよく過せるよう努めている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し，さりげなくトイレ誘導をされています。夜間はオムツを使用する利用者が若干名おられます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	利用者ごとの個別摂取に注意しながら散歩や体操の声かけをし運動不足解消に努めている医師の指示により服薬も行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴日を決めている為毎日入浴が出来ないが入浴日の入浴時間であれば順番を決めず利用者のペースで入浴を行っている。	入浴は週3回の予定です。夏場は毎日シャワー浴をされます。風呂場は家庭の風呂場より広くゆったりと入れます。リフト浴があり，足の不自由な利用者も入浴できます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとり、個室を用意し、自由に御自分のペースで過していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	医師の指示、説明を記録し職員が共有している。症状の変化などについては看護部門との連携をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	調理、掃除、洗濯、洗濯たたみ、園芸、散歩、生きがい活動などを行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ショッピングや売店、行事、散歩などに参加してもらい、家族には一緒に外出していただけるように働きかけをしている。	ほぼ毎日ホームの近所を散歩されています。また、スーパーへの買い物、ドライブなどにも出かけられています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	それぞれの利用者に合わせて、金銭の出入りを支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	公衆電話を設置しいつでも電話ができるようにしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者にとって居心地のよい、落ち着いた雰囲気です。自然環境がとりいれられ、玄関廻りにわ季節ごとの花を植えたり季節の行事の飾りをかざり季節感をあじわえるよう工夫している。	玄関には季節の花がいつも飾られています。お雛様など季節に応じた飾り物を置いたり、掲示されたりしています。照明も落ち着いた明るさです。廊下には随所にベンチが置かれくつろぐことができます。利用者にとって居心地良く落ち着いて過ごせる工夫がされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食堂はいつでも過ごせるようにしている。廊下には利用者同士で過ごせるよう椅子をおいている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入所時には、本人の使いなれたもの、大事にしているものなどもっていただき本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族写真の掲示や、使い慣れた整理ダンス、テレビ、大正琴などを持ち込まれています。位牌を持ち込まれている利用者もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	バリアフリーになっており、手摺も設置し安全に過ごせるようになっている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の3分の2くらいの
			③利用者の3分の1くらいの
			④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の3分の2くらいと
			③家族の3分の1くらいと
			④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の3分の2くらいが
			③職員の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の3分の2くらいが
			③家族等の3分の1くらいが
			④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 たちばな苑グループホーム

作成日 平成 23年 3月 28日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	6	危険場所があるため施設している。	危険場所の改善をしたい。	検討中。	検討中
2	5	市との連携が積極的に行えていない。	連携がとりやすい関係作りをしていきたい。	市開催の研修, 運営推進会議等に参加して頂くよう取り組んでいきたい。	1 2 か月
3	10	ご家族の意見や思いを聞きにくい。	ご家族の方が意見などを言いやすい関係作りを行いたい。	毎月送っている利用者様の状況報告の中へ家族からの意見を書いて頂ける用紙を送る。	
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。